

IPM実践指標(施設ガーベラ)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄				
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況		
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境整備	ほ場内、周辺の除草	病害虫の発生源となるのでの雑草を除去する。				
		土壌消毒	薬剤を利用して、土壌中の病原菌・害虫・雑草を防除する。				
		健全苗の定植	病害虫の発生や被害のない健全苗を使用する				
		排水対策・水管理	排水不良で病害の発生が助長されるため、排水対策を徹底する。また、灌水過多にならないように適正な水管理をおこなう。				
		栽培管理	栽培基準に従って適切な密度で定植・管理して、軟弱徒長させない。摘葉して過繁茂を防ぐ。				
		高温対策	高温による草勢の低下は病害の発生を助長するので、ハウスサイドの開放や遮光資材の利用により、生育適温の維持に努める。				
		施設内の湿度管理	暖房機、循環扇の利用または敷きわらやポリマルチなどの被覆により施設内の湿度を適切に保つ。				
		病害虫発生源の除去	疫病などにより枯死した株を速やかに除去する。摘葉、摘花をハウス外に持ち出して適正に処理し、施設内の病害虫の発生源をなくす。				
		施設の蒸し込み	栽培終了後に蒸し込みを実施し、施設内の害虫を死滅させる。				
判断	防除要否・タイミングの判断	病害虫発生予察情報等の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や普及指導センター等が出す病害虫に関する情報を入手し、発生状況を確認する				
		気象状況の把握	気象情報を把握し、適切に防除を実施する。				
		病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。				
		トラップの設置	黄色粘着トラップなどによりほ場での害虫類の発生状況を把握する。				
防除	生物的防除	ハダニ類	生物農薬の使用	捕食性天敵(ミヤコカブリダニ・チリカブリダニ)を利用する。			
		アザミウマ類 コナジラミ類		捕食性天敵(スワルスキーカブリダニ等)を利用する。			
	物理的防除	紫外線除去フィルムの展帳	ハモグリバエ類・アザミウマ類・コナジラミ類などの微小害虫対策として施設の被覆資材に紫外線カットフィルムを展張する。				
		防虫ネットの設置	チョウ目害虫類対策として施設の出入口、天窓、側窓などに防虫ネット(4mm目合い)を設置する。				
	黄色蛍光灯の設置	ヤガ類対策として黄色蛍光灯を設置し、7月～12月に点灯する。なお、点灯時間は日没前～日の出直後とする。					

IPM実践指標(施設ガーベラ)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除 化学的防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。			
	剤の選択	薬剤の感受性低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。			
		天敵に影響の少ない薬剤を選択する。			
		化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、物理的防除効果のある薬剤を組み入れる。			
	農薬飛散防止対策	農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。			
	散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。			
その他	作業日誌の記帳	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。			